

北部
ひとまもり・まちまもり協議会
地域ビジョン

令和7年3月



目次

【第1部】 北部地区について	1
1 あいさつ	1
2 ひとまもり・まちまもり協議会とは.....	2
3 北部地区の概要	3
4 北部地区の人口	4
5 協議会の体制	5
6 今までの活動	5
【第2部】 地域ビジョン策定について	6
1 地域ビジョンについて	6
2 地域の現状について.....	6
3 北部ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標.....	8
4 北部ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン	10
【第3部】 課題解決ワークショップの開催について	11
1 課題解決ワークショップの開催	11
2 【第1回】 地域の課題について考える.....	12
3 【第2回】 地域で求められていることを考える	14
4 【第3回】 地域で実施するアイデアを考える	16
5 地域ビジョン策定ワークショップ参加者名簿	19

【第1部】 北部地区について

北部ひとまもり・まちまもり協議会が
地域の明るい未来の実現にむけて活動していくために
「地域ビジョン」を策定しました。

1 あいさつ

北部地区は、別府湾と山々に囲まれた緑豊かな地域で、関の江海水浴場や堂面棚田など美しい自然景観が広がっています。地域には、別府大学、立命館アジア太平洋大学、別府溝部学園短期大学があり、学生のまちとしての側面と、社会福祉法人 太陽の家が所在し、障がいのある人が働き、生活するまちとしての側面も持ち、多様な背景をもった人々が居住する共生のまちです。また、上人地区には国指定の史跡である鬼ノ岩屋古墳群もあり、歴史的な価値も兼ね備えています。

北部ひとまもり・まちまもり協議会は令和元年9月に発足し、上人地区と亀川地区の自治会23町と21の構成団体が連携し、地域の特性をいかにしながら課題解決に取り組んでまいりました。

そして、この度、「北部ひとまもり・まちまもり協議会地域ビジョン」が完成いたしました。これは、地域の皆さまと共に地域の未来を考え意見を交わしながら作り上げたものであり、今後の指針となる一冊です。

本冊子では、これからの地域の在り方や取り組むべき課題について皆さまと共有し、よりよい未来を築くための指針を示しました。今後は、この地域ビジョンをもとにして、地域の資源をいかし、魅力を発信し、住民の方々に活動に関心を抱いていただけるよう努めるとともに、地域を盛り上げる後継者の育成にも力を注いでまいります。

最後に、ご協力いただいたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

北部ひとまもり・まちまもり協議会
会長 梅木 政喜

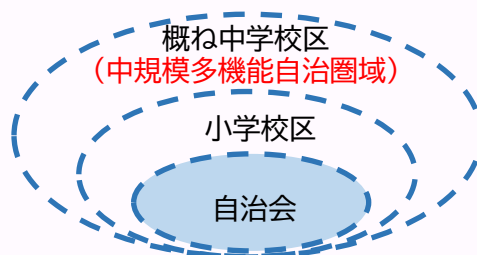
2 ひとまもり・まちまもり協議会とは

～地域がつながるまちづくり 市内7つの新たなコミュニティ～

【持続可能な地域コミュニティに向けて】

別府市では将来に向けて、従来の小学校区の自治の範囲を概ね中学校区の圏域に広げて自治運営の基盤を拡大することにより、様々な機能をもつ中規模多機能自治を推進しています。

現在、7つの圏域の地域運営組織として、多様な主体が連携する「ひとまもり・まちまもり協議会」が新たな地域コミュニティを形成し、地域の特性をいかながら課題解決に取り組んでいます。



別府市 HP より

【ひとまもり・まちまもり協議会とは】

ひとまもり・まちまもり協議会は、多様な人や団体が連携して、住民が力を合わせて主体的に地域づくりを行う新たな地域コミュニティです。地域住民が中心となって、地域の特性をいかながら連帯感を高め、将来を見据えた地域づくりを行っています。

自治会を含めた多様な主体や幅広い人材が連携・協力することにより、様々な課題に対して、ネットワークをいかした自主的・効果的な取組が期待できます。

別府市 HP より

■ ひとまもり・まちまもり協議会一覧

概ね中学校区の圏域で7つのひとまもり・まちまもり協議会が活動しています。



山の手



中部



南部



朝日大平山



北部



鶴見・南立石・東山

鶴見台

鶴見台

別府市 HP より

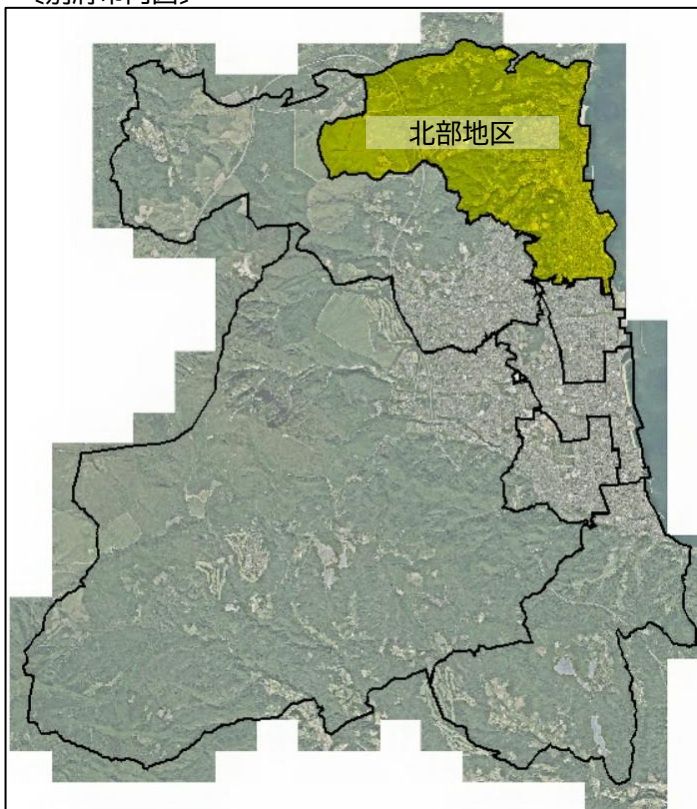
3 北部地区の概要

北部地区は、北から冷川・新川・平田川が流れ、緑豊かな棚田や別府湾岸の美しい自然に恵まれた地域です。市街地には商店や共同温泉が点在し、山際には計画的に開発された住宅地が広がっています。地区内には、別府大学・立命館アジア太平洋大学・別府溝部学園短期大学が立地し、留学生を含む多くの学生が居住しています。

古い歴史のある亀川温泉・柴石温泉は、別府の温泉文化を長年支え、住民や観光客を癒しています。海岸線では、令和5年に関の江海岸の整備が完了し、現在は上人ヶ浜公園周辺の整備が進んでおり、新たな地域活性化の拠点としても期待されます。

地区の人口は約 17,600 人、世帯数は約 10,200 世帯、高齢化率は約 35.9%であり、7圏域(協議会)で、人口・高齢化率ともに3番目に多く(高く)なっています。(※人口・世帯数・高齢化率は令和6年7月末現在の数値)

〔別府市内図〕

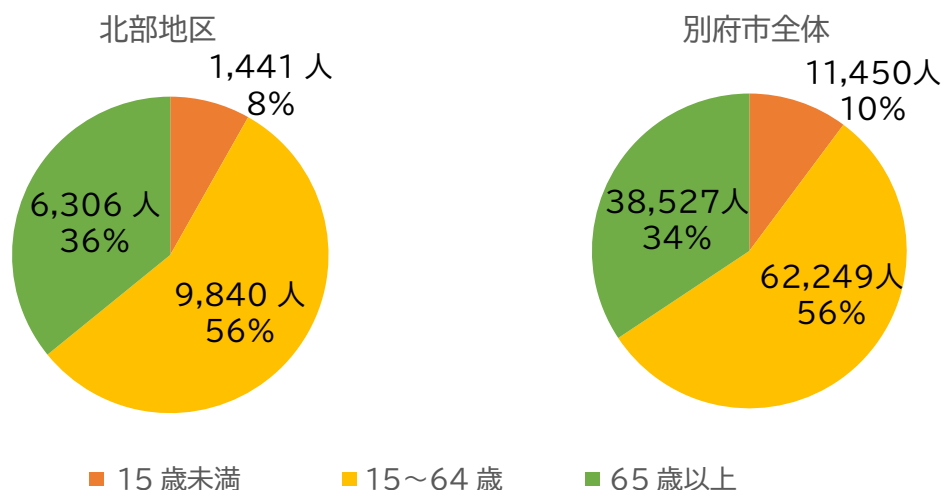


【北部ひとまもり・まちまもり協議会の基本情報】

設立	令和元年9月1日
事務所	別府市亀川浜田町1番36号 別府競輪場内
構成団体	自治会(上人・亀川23自治会)、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、老人会、青少年育成協議会、体育協会、小学校、中学校、PTA、地区公民館、地域包括支援センター、さんもく会、亀川の自然環境を守る会、堂面棚田を守る会
該当地区	亀川四の湯町、平田町、照波園町、上人ヶ浜町、上人本町、上人仲町、上人西、上平田町、大観山町、古市町、亀川浜田町、亀川中央町、亀川東町、野田、内竈、国立第一、国立第二、小坂、大所、関の江新町、スパランド豊海

4 北部地区の人口

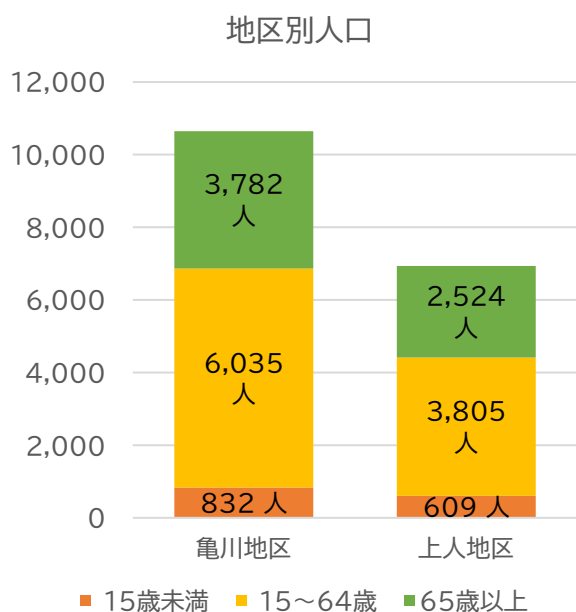
■ 北部地区と別府市全体の人口構成(令和6年7月末現在)



北部地区の人口構成は、65歳以上の高齢人口割合が約36%となっており、これは別府市全体(約34%)よりやや高く、15歳～64歳にあたる生産年齢人口割合は別府市と同程度となっています。一方で15歳未満の年少人口割合が低く、若年層が少ない地区と言えます。

別府市全体の人口構成と大きく異なるわけではありませんが、15歳未満の人口割合が少なく、65歳以上の割合がやや高い点が特徴です。

■ 地区別の人口(令和6年7月末現在)

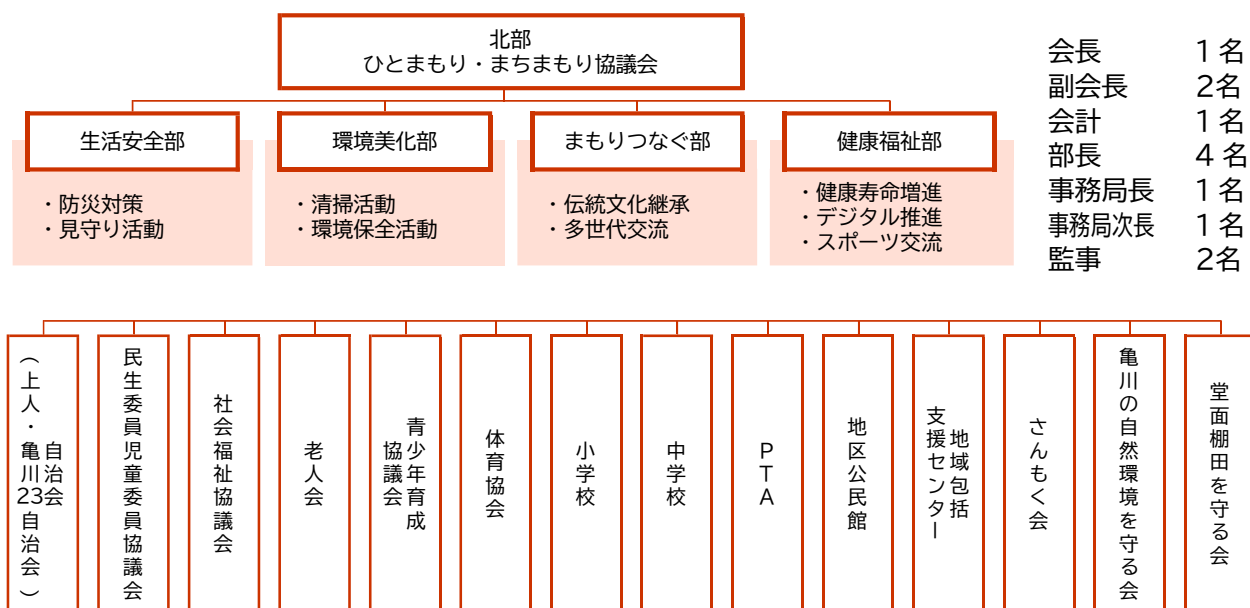


北部地区の人口を地区別にみると、亀川地区が約11,000人、上人地区が約7,000人となっており、亀川地区の方が多くなっています。

65歳以上の割合は亀川地区、上人地区ともに約36%と、ほぼ同じ割合です。15歳～64歳にあたる生産年齢人口割合も若干亀川地区の方が高いものの大きな差はありません。特徴として、両地区ともに年少人口割合が低く、亀川地区(約8%)の方が、上人地区(約9%)より低くなっています。

5 協議会の体制

【組織図】



6 今までの活動

【防災対策】

防災意識向上やネットワーク構築など非常時に備えるための取組を実施しました。

- ・避難所運営訓練
- ・防災研修会
- ・防災資器材や非常食の整備



【環境保全活動】

「亀川の自然環境を守る会」と連携し、冷川の環境保全活動を通して住民への周知・交流を図る活動を実施しました。

- ・ホタル観賞会
- ・冷川清掃活動
- ・カワニナ飼育(小・中学校)



【その他の活動】

- ・通学路安全事業(道路標示・ながら見守り活動標語掲示)
- ・スマホ教室
- ・鬼の岩屋古墳見学会
- ・太鼓山車の修繕
- ・掲示板の整備
- ・公式インスタグラムの開設



【第2部】 地域ビジョン策定について

1 地域ビジョンについて

地域ビジョンとは、ひとまもり・まちまもり協議会がこれからの地域をより良いものにしていくためにはどのように活動すればよいかを示す指針です。将来を見据えたまちづくり活動を行うための体制づくりのきっかけとなるものであり、住民と自治体等が対等なパートナーとして、ともに理想の地域を築くための道しるべです。

2 地域の現状について

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するためにワークショップを実施し、北部ひとまもり・まちまもり協議会の現状と課題、目指すべき姿について整理しました。

① 挑戦したい取組を実現するために協力できる組織にする

本協議会では、地域の活性化を進めるために、地域交流事業などさまざまな取組を実施してきました。今後は、亀川地区と上人地区それぞれの特徴をいかし、互いに協力しながら新しい活動を考えていくことが大切です。

協議会活動に対して、「どのような活動を行うべきなのか」という声もあります。そこで、活動の目的を改めて共有し、新たに参加するきっかけをつくることが重要です。地域の貴重な資源である自然環境や古墳等を活用するなど、地域について学び、まもっていく取組を実施します。

さらに、定期的な会議だけでなく、地域住民からの意見を柔軟に取り入れる体制を整えることで、地域の活力を高めていきます。また、祭りなどを通じて地域のつながりを深め、多世代が参加できる場を増やすことにも取り組んでいきます。

② 学校と連携し若い人がかかわりたくなる協議会にする

本協議会では、環境美化活動などの取組を通じて若い世代と交流する機会を設けてきました。しかし、次世代の担い手となる人材はまだ少ないため、単発的な参加だけではなく、継続的にかかわる人を増やすことで後継者を発掘、育成していくことが求められています。そのためには、学校やPTAと連携し、若い世代が関心を持ちやすく、今後もかかわりたいと思える取組を進めることが重要です。

また、近年は自治会などの地域組織に加入しない世帯が増えており、本協議会の活動内容を伝えることの重要性が高まっています。関係団体の間で目的や課題を共有し、親子で参加しやすい活動を実施していきます。

③ 必要な人に必要な情報が届くようにする

広報活動については、掲示板や回覧板に加え、公式Instagramを活用して情報発信を行ってきました。しかし、様々なツールを用いても、もともと関心のある方にしか情報が届かず、新たな参加者を増やすには十分とは言えません。また、情報を求めている方にも十分に届いていない可能性があります。

すでにSNSを活用しているため、今後は発信内容やタイミングを工夫し、より効果的に情報を届けられるよう検証を重ねることが重要です。これにより、地域のさまざまな方に活動を知っていただき、参加のきっかけを広げていきます。

④ いざという時に助け合える地域にする

本協議会では、地域の安全をまもるため、防災活動や通学路の安全対策に取り組んできました。しかし、防災意識の向上には引き続き対策が必要であり、協議会全体で地域の安全に向けた継続的な取組を進めていくことが重要です。特に、高齢者の避難に課題があるため、若い世代と高齢者が協力して行う防災訓練を定期的の実施し、実際の避難時にスムーズな対応ができるよう備えていく必要があります。

こうした訓練を通じて、防災意識を高めるだけでなく、世代を超えた地域のつながりを深めることができます。また、日頃から地域内での声かけや見守りの仕組みを整えることで、災害時にも互いに助け合える環境をつくり、安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。

3 北部ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標

地域の現状や課題の確認から整理したキーワードより、北部ひとまもり・まちまもり協議会が活動するうえで活動目標と活動方針を整理しました。

● 活動目標①

やりたいことを実現できる組織づくり
求められていること
・ 様々な人の意見を聴き対話する「場」を設ける ・ 地域同士の相互理解を深め、全体が一つになる取組をする ・ 地域の人が集まって、楽しむことができる「場」を提供する ・ 今までの活動を見直し、新たな取組を実施する
活動方針
活動の目的を共有するとともに対話の「場」を設け、積極的に新しいアイデアを実現できる組織にしていきます。

● 活動目標②

継続的にかかわりたくなる取組
求められていること
・ 若い人が参加しやすい環境をつくる ・ 子どもが中心になる取組を実施する ・ 学校と連携し、児童・生徒・学生とのかかわりを増やす
活動方針
若い世代にも継続的にかかわってもらうために、単なる交流にとどまらず、地域をより良くできるという実感をもてる活動を行います。

● 活動目標③

ターゲットを明確にした的確な情報発信

求められていること

- ・ 協議会の認知度を上げる広報活動をする
- ・ 協議会がどう評価されているか情報を収集する

活動方針

掲示板、回覧板、インターネット等により行っている情報発信方法について、より効果的な活用をします。

● 活動目標④

困ったときに遠慮なく助け合える地域づくり

求められていること

- ・ 防災とイベントを掛け合わせた取組をする
- ・ 買い物場所や移動手段の問題に取り組む
- ・ いざという時に備え日常のコミュニケーションを推進する
- ・ 空き家対策を実施する

活動方針

住民の日常生活をまもる活動を継続しながら、災害時に向けての備えを充実させる取組をします。住民同士のコミュニケーションを促し、相互協力できる地域をつくれます。

4 北部ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン

設定した活動目標や活動指針から、北部ひとまもり・まちまもり協議会としての今後のまちづくりの指針となる「地域ビジョン」を策定しました。

■ 地域ビジョン

地域の特色ある資源をいかし、
「ひと歴史も自然も大切にすまち」へ

北部ひとまもり・まちまもり協議会の 目指す地域づくり

地域の歴史や自然を大切にし、多様な団体と連携した取組を行う組織として、豊かな資源をまもる活動に取り組んできました。地域の特性をいかした独自の活動を通して、「北部らしさ」のあるまちづくりを進めています。一方、将来を見据え、徐々に次世代の育成を進めていく必要もあります。

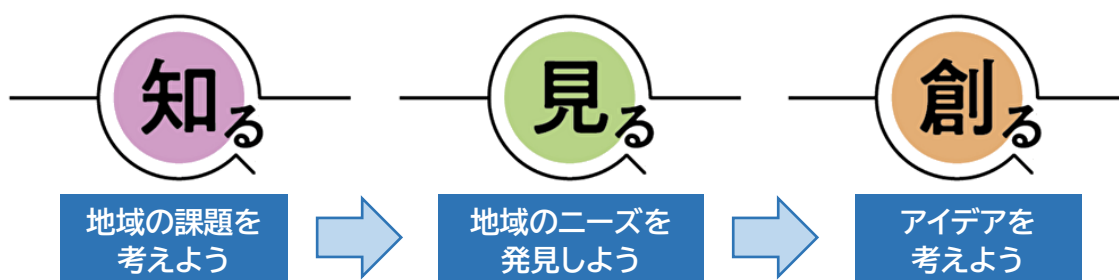
今後の活動の継続や、地域の活性化を見据えると、学生との交流の機会を設け、継続してまちづくりにかかわってもらえるような仕組みをつくる必要があります。また、地域内で協議会に対する関心や参加意欲に差があるという意見もあるため、自然や史跡などの独自の資源を活用し、住民が共通の目的意識を持てるよう工夫をすることが求められます。

住民全体で協力しながら、豊かな自然と趣深い歴史に囲まれたこの地域で、今ある大切なものをまもりながら、将来に向けて発展していく協議会となっていきます。

【第3部】 課題解決ワークショップの開催について

1 課題解決ワークショップの開催

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するために、「持続可能なまちづくり」をテーマとし、デザイン思考※を用いた「課題解決ワークショップ」を全3回にわたり実施しました。



【第1回】 地域の課題について考える

活発な意見交換の中で、地域に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題について考えました。

【第2回】 地域で求められていることを考える

第1回で洗い出された課題をもとに、地域の中に潜在する「ニーズ」を探すとともに、それを解決する糸口となる「問い」を設定しました。

【第3回】 地域で実施するアイデアを考える

第2回で設定された「問い」を解決するための具体的なアイデアを考え、「絵(図)」という形でイメージを具体化しました。

ビジョンの検討、とりまとめ

ひとまもり・まちまもり協議会 地域ビジョン策定

※デザイン思考とは

問題を解決するための思考法の一つです。課題を洗い出した後に、重要な問題を特定することで真に解決が求められている本質的な問題はなにかを考えます。この問題に対し、どう解決していくかアイデアを出し合い、実行プランへと具体化します。意見を出し合い、重要なものに絞り込んでいく過程を繰り返すことで、普段可視化されていなかった潜在的な課題や対応が必要な事項を探り出すことができます。

2【第1回】地域の課題について考える

活発な意見交換の中で北部地区に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題が何なのかを考えました。参加メンバーから挙げられた課題を紹介します。

(令和6年9月12日実施)

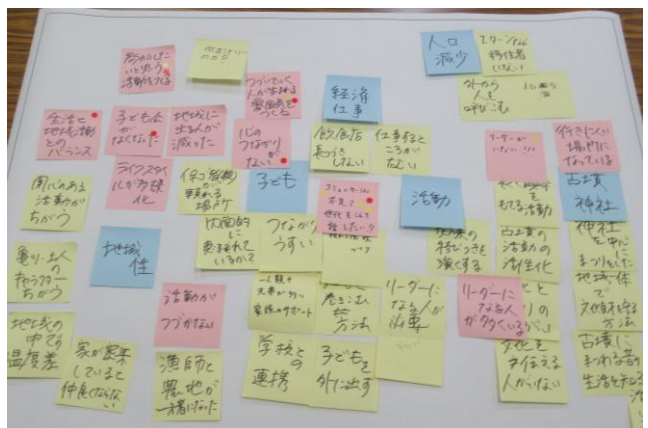
キーワード	子ども、若い世代、後継者
実際の意見	・ 子ども会の会員不足により、子ども会がない地域がある ・ 若い人にもっと地域に興味を持ってほしい ・ 取組の運営を若い人に分担したい ・ 次のリーダーになる人が必要
キーワード	学生との交流
実際の意見	・ 学生との交流を増やす、参加した学生がその後戻ってくることもある ・ 学生と地域は少しずつつながっている ・ 学生と継続的な活動をしたい
キーワード	組織体制
実際の意見	・ 役員の兼任が多い ・ 部会が少ない、声をかけるタイミングがない ・ 協議会の集まりが計画的に実行されておらず、効果的な話し合いができていない
キーワード	自治会・協議会活動
実際の意見	・ 興味がわく活動が必要 ・ 住民からの相談対応が多い ・ 夏祭りの参加人数が増えたが、祭りから地域活動につながっていない

キーワード	歴史・文化、地域性
実際の意見	・ 神社・古墳などを中心にした祭りをしたい ・ 地域一帯で文化を伝え、文化財をまもる方法が必要 ・ 亀川と上人が分断されている感じがあるので、両方がかかわる新しいイベントが必要

キーワード	防災
実際の意見	・ 防災士会の活動に地域差がある ・ 地域ごとの避難訓練が必要 ・ 防災に中学生の力を活用する ・ 高齢者避難が課題



課題からの気づき
・ 2つの地域が一体感を持って、持続的・効果的に活動できるものが必要 ・ 子どもと地域のかかわりをつくることで親世代や学生ともつながりをもって、次の世代に渡せる、続いていく雰囲気をつくる必要がある



3【第2回】地域で求められていることを考える

第1回で洗い出された課題をもとに、地域の中で「求められていること」を探すとともに、それを解決する糸口となる「問い」を設定しました。4つのグループでどんな「問い」にたどり着いたかを紹介いたします。

(令和6年10月8日実施)

■ 設定された「問い」①

課題解決のための問い

「どうすれば、一人ひとりが幸せに過ごせる明るい地域づくりができるだろうか？」

求められて
いること

- ・ 多くの住民の活動への参加
- ・ 生鮮食品販売店やおかずの店、簡単な昼食の店
- ・ 子育てや家族関係についてなど、相談できる場所
- ・ 麻雀、卓球、バレー、ラジオ体操などの活動の場
- ・ 地域対抗のスポーツ競技

■ 設定された「問い」②

課題解決のための問い

「どうすれば、全世代を活動の中心に集めることができるだろうか？」

求められて
いること

- ・ 世代を超えたコミュニケーションの場
- ・ 全世代が参加できる防災キャンプ
- ・ 自治会が中心となり、子ども会用の年間行事スケジュールを作成する
- ・ 若い世代にとって魅力的な地域

■ 設定された「問い」③

課題解決のための問い

「どうすれば、活動を厳選しつつ、若者を取り込める活動ができるだろうか？」

求められて
いること

- ・ 活動の見直し
- ・ 学生や子どもが楽しいと思える場をつくる
- ・ 学生と連携した取組
- ・ 子ども中心のイベント
- ・ 地域の人との交流

■ 設定された「問い」④

課題解決のための問い

「どのようなイベントを行うことで、地域の一体感と学生との交流が生まれるだろうか？」

求められて
いること

- ・ 地域で一体的に取り組めるイベント
- ・ 祭りやスポーツ、食事会等、若者と話す機会

4【第3回】地域で実施するアイデアを考える

【第2回】のワークショップにて、北部地区の「本質的な問い」を4つ設定しました。

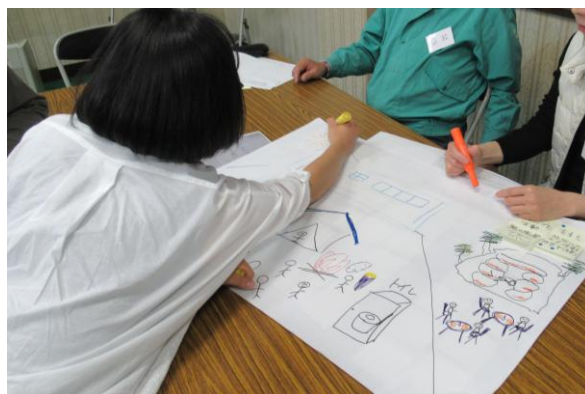
(令和6年11月6日実施)

課題解決のための問い

1. どうすれば、一人ひとりが幸せに過ごせる明るい地域づくりができるだろうか？
2. どうすれば、全世代を活動の中心に集めることができるだろうか？
3. どうすれば、活動を厳選しつつ、若者を取り込める活動ができるだろうか？
4. どのようなイベントを行うことで、地域の一体感と学生との交流が生まれるだろうか？

この問いに対して、ワークショップの参加メンバーで4つのグループに分かれて、実際にどう行動していくかアイデアを出し合いました。

次のページから、内容について紹介します。



アイデア A

～色々な人、色々な世代が集う～
集い、ふれあえる場づくり

【課題解決のための問い】

どうすれば、一人ひとりが幸せに過ごせる明るい地域づくりができるだろうか？



【アイデアの視点】

一人ひとりが幸せに過ごせる明るい地域づくりを進めるために、色々な人が、色々なことができる場が必要だと考えた。

地域づくり交流の場

一人ひとりが幸せに過ごせる明るい地域づくりを進めるために、交流の場を増やすというアイデア。無料喫茶で人が集い、交流する。料理教室もできる。これまで活動に参加していなかった人も気軽に利用できる場とする。

いろいろな活動ができる場

将棋やマージャン大会をすることで、人が集まりやすくする。地域の空き地を活用してもらい、地域住民が共有で使用できる空間。そのほかにも、家庭でいらなくなったものを学生が格安で販売する場を設けるなど、いろいろな人、いろいろな世代が集い、ふれあえる場をつくる。

アイデア B

～防災を通して住民とのふれあい～
みんなが参加する防災訓練

【課題解決のための問い】

どうすれば、全世代を活動の中心に集めることができるだろうか？



【アイデアの視点】

全世代が活動の中心となり、世代を超えたコミュニケーションができる活動、魅力的な地域にするための活動を考えた。

みんなが参加する防災訓練

子どもから高齢者まで、みんなが参加する防災訓練を一斉に実施するアイデア。訓練の一環として炊き出しでカレーをつくり、みんなで食事会。防災についての学びの場でもあり、防災面での課題を共有し、解決に向けた取組とともに住民とのふれあいができる活動。

地域資源をいかした催し

魅力的な地域にしていくために、地域資源をいかした催しを行い、地域住民とのふれあいの場をつくる。鬼ノ岩屋古墳で見学ツアーを企画し、周辺でバーを開く。夜には花火をあげるなど、参加して楽しいイベント。

アイデア C

～美しい棚田を後世へ～
つくったお米でバーベキュー

【課題解決のための問い】

どうすれば、活動を厳選しつつ、若者を取り込める活動ができるだろうか？



【アイデアの視点】

大人も子どもも参加できる活動を考えた。考えるにあたり、地域の美しい棚田の活用とその維持を目標に掲げた。

年間を通したイベント

自分たちがつくったお米を使ってバーベキューをするアイデア。「田植えをしませんか？」「バーベキューをしませんか？」といった単発の企画でなく、田植えから稲刈り、バーベキューまでを年間を通したイベントにする。

美しい棚田を残す

つくったお米をナイトバザーで販売。その他にも寄付を募るなど、美しい棚田を残すための活動を行う。お米の販売は「おにぎりプロジェクト」として新しいプロジェクトを立ち上げ、住民が楽しく参加することで、美しい棚田を残していく。

アイデア D

～新たな目標、新たな交流～
地域みんなで e スポーツ

【課題解決のための問い】

どのようなイベントを行うことで、
地域の一体感と学生との交流が生まれるだろうか？



【アイデアの視点】

アイデアを考えるにあたり、イベントだけでの交流でなく、日頃からの交流が生まれるには、どのようなイベントがあるかを考えた。

みんなで e スポーツ大会

卓球やバレーボール、ウォーキング大会など、いろんなアイデアが出る中で、誰でも参加できるものとして、e スポーツを取り上げた。公民館を使って大会を開催。大会では景品も用意し、e スポーツが得意な学生との交流が生まれる。

練習を通した交流

大会当日だけでなく、公民館を使った e スポーツ教室により、日頃からの交流が生まれる。自宅でも練習可能。1 年を通して取り組み、成果として表彰や景品を出すことにより、1 つの目標に向かって活動ができるのではないかと考えた。

5 地域ビジョン策定ワークショップ参加者名簿

役 職	氏 名	所 属 等
会 長	梅 木 政 喜	亀川四の湯町1区自治会長
副 会 長	阿 部 修 司	上人ヶ浜町自治会長
事 務 局 長	石 谷 千 年	亀川夏まつり実行委員会委員長
監 事	伊 東 一 仁	亀川浜田町自治会長
環 境 美 化 部 会 長	渡 邊 彰	亀川中央町2区自治会長
まもりつなぐ部 会 長	山 本 信 太 郎	上人本町自治会長
健 康 福 祉 部 会 長	遠 田 秀 穂	上人仲町自治会長
まもりつなぐ部 会	高 橋 伸 子	亀川の自然環境を守る会会長
まもりつなぐ部 会	山 則 正 幸	さんもく会会長
まもりつなぐ部 会	恒 松 恵 典	内竈自治会長
健 康 福 祉 部 会	高 野 悦 子	亀川地区民生委員児童委員協議会
健 康 福 祉 部 会	平 川 孝 史	北部地域包括支援センター
健 康 福 祉 部 会	平 松 幹 雄	照波園町自治会長
生 活 安 全 部 会	永 田 真 一	北部中学校PTA会長
環 境 美 化 部 会	東 守	大観山自治会長
広 報 事 務 担 当	石 野 田 史 浩	亀川夏まつり実行委員
	石 野 田 直 子	亀川夏まつり実行委員
	伊 南 寿 賀	亀川夏まつり実行委員
	高 橋 雅 美	亀川の自然環境を守る会
	西 山 祐 未	子ども食堂「灯」(APU学生)
	有 馬 壮 飛	子ども食堂「灯」(APU学生)
	服 部 真 央	子ども食堂「灯」(APU学生)
	岩 城 裕 子	子ども食堂「灯」(ボランティア)